



様々な表情の「egg bowl」



削りも手際よい



ディーハウスを聴きながら轆轤を廻す花子さん



窯詰はぎっしり



しのぎカップ



黒板にイラストで描かれたスケジュール表



コーヒードリッパー



一輪挿し



ハニカム皿



中里 花子
Hanako Nakazato

1972年中里隆氏の次女として生まれる。16歳で単身渡米し、1996年米国スミスカレッジ美術学部卒業。父、中里隆に陶芸を学んだ後に開窯・独立。

- 駐車場 (3~5台)
- 作業風景見学
要予約
(メール又は電話)
- 体験教室
- 要連絡

窯印・作家印▶

Monohanako

モノハナコ



境界も垣根もなく、ただ自然体で。

mono only. 世界でひとつのものを目指し、作陶を続ける花子さん。アメリカと唐津で半年間ずつ過ごすライフスタイルの中から、他の唐津焼作家にはない作風が生まれる。特に唐津焼にこだわっておらず、生み出す作品はバラエティー豊かだ。

「直感的な mono つくりと作為的ではない勢いを大事にしている」と話す花子さん。つくる作品はあくまでも「日常の器」。食を盛りつけ、暮らしを豊かにするための道具なのだ。料理人やデザイナーなど、異分野のクリエイターとの交流も活発で、境界も垣根もなく、自由で自然体なのが花子さんの何よりの魅力だ。これからの活躍がますます楽しみな女性作家である。



唐津市見借 4838-20 TEL.0955-58-9467
monohanako@gmail.com
<http://www.monohanako.com>